

# サッカーワールドカップにおけるフォワードの動きだしの特徴

山田 裕貴 〈競技スポーツ学科 コーティングコース〉

指導教員 山田 庸

キーワード：ダイアゴナルラン，裏への動きだし，こぼれ球

## 1. 緒言

サッカーワールドカップ（W杯）2014 ブラジル大会ではカウンターが効果的に用いられ、少ない攻撃時間と得点機会得点でゴールをとるフォワードの重要性が指摘された。フォワードが効率よく得点するためには、ボールをもらう前の動きだしを行い敵のディフェンダーのマークを外し、フリーな状態でシュートすることが必要である。

W杯 2014 ブラジル大会のフォワードの動き出しに着目し、得点に繋がったプレー中のフォワードの動き出しの特徴を検討すること。を目的とした。

## 2. 研究方法

本研究の研究対象は、W杯 2014 ブラジル大会における得点シーン 171 プレーとした。各ゴールシーンについて、大会公式映像のVTRを観察しフォワードの動きだし分析した。フォワードの動きだしを集計した。

## 3. 結果および考察

フォワードの動き出しはダイアゴナルランが 26 回、こぼれ球も 26 回、長い距離を走る裏への動き出しが 22 回とこの 3 つが多い結果となった。この 3 つで全体の約 1/3 以上を説明した。ダイアゴナルランはフォワードの動きだしの中で一番効果的であると考えられる。こぼれ球は、今大会はカウンターを使う戦術のチームが多く相手のディフェンスラインの裏のスペースを狙うことが多いためと考えられる。また、相手ディフェンスが処理しきれないボールを狙いフォワードが動き出し得点につながる事が多い。長い距離を走る裏への動きだしは広いスペースが必要となる。相手ボールを奪うと

相手ディフェンダーの裏のスペースが空き、フォワードが効果的に攻めることができたと考えられる。

## 4. まとめ

相手ディフェンスの裏のスペースを狙う動きだしが多い。特に、ダイアゴナルラン、こぼれ球、長い距離を走る裏への動きだしが多い。

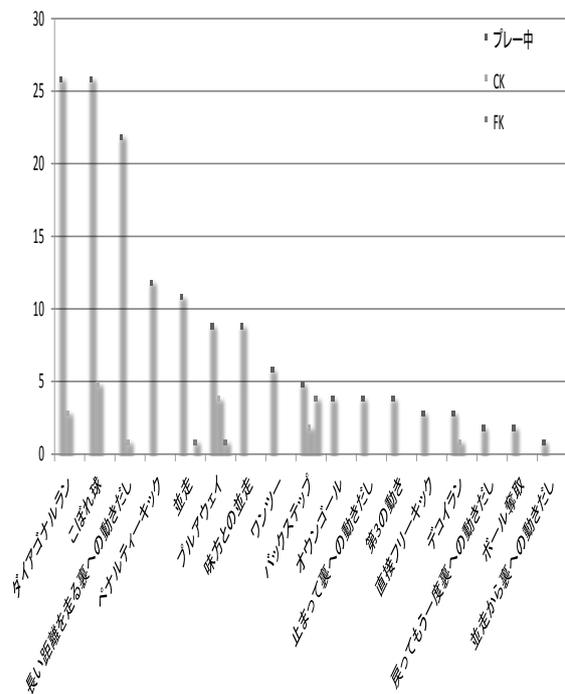


図1 フォワードの動きだし

## 参考文献

FIFA (2014) FIFA WORLD CUP 2014 BRAZIL 公式サイト. [m.fifa.com/worldcup/videos/goals/index.html](http://m.fifa.com/worldcup/videos/goals/index.html)